

第 64 回秋田実技セミナー（基礎）開催報告

開催日時：平成 30 年 3 月 24 日（土）8：50～13：45

開催場所：JA 秋田厚生連秋田厚生医療センター 参加人数 48 名

主催：「最後まで口から食べる県、秋田！」推進協議会

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

後援：NHK 秋田放送局、ABS 秋田放送、I7I1秋田、秋田魁新報社



開催目的：要介護高齢者や 摂食嚥下障害者の口から食べたいという願いを実現するために、支援者の口から食べたいという願いを実現するために支援者の口から食べる技術の向上を目指し、摂食嚥下療法やリハビリ、ケアマネジメント力を駆使しながら誤嚥性肺炎のリスクがある方やさらなる医療依存度が高い方々においても口から食べたい願いを実現できるように取り組む。具体的には吸引ブラシを使った口腔ケア、摂食嚥下スクリーニング、食事介助の実技を中心に実習する。

【講師・アドバイザー】（敬称略）

名前	職種	所属
小山 珠美	看護師	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 神奈川県厚生連伊勢原協同病院
竹市 美加	看護師	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事 ナチュラルスマイル西宮北口歯科
谷合久憲	医師	JA 秋田厚生連 由利組合総合病院
前田有紀子	看護師	JA 秋田厚生連 雄勝中央病院
小菅一弘	歯科医師	ジュネスデンタルクリニック

<セミナーの様子>

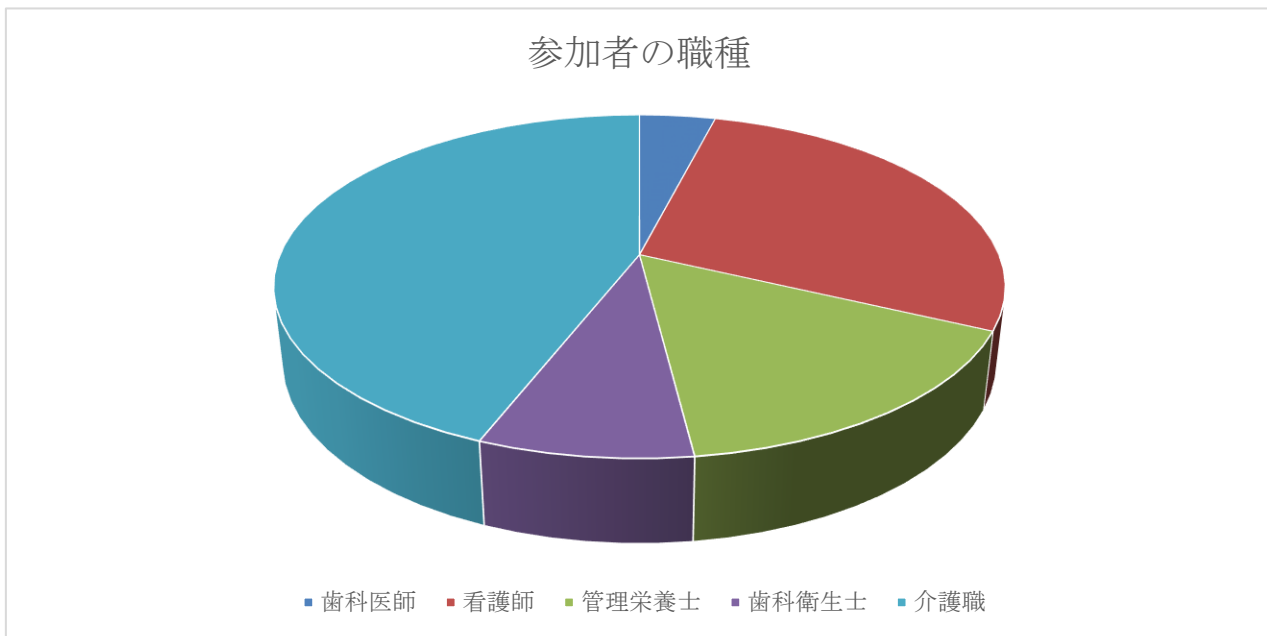




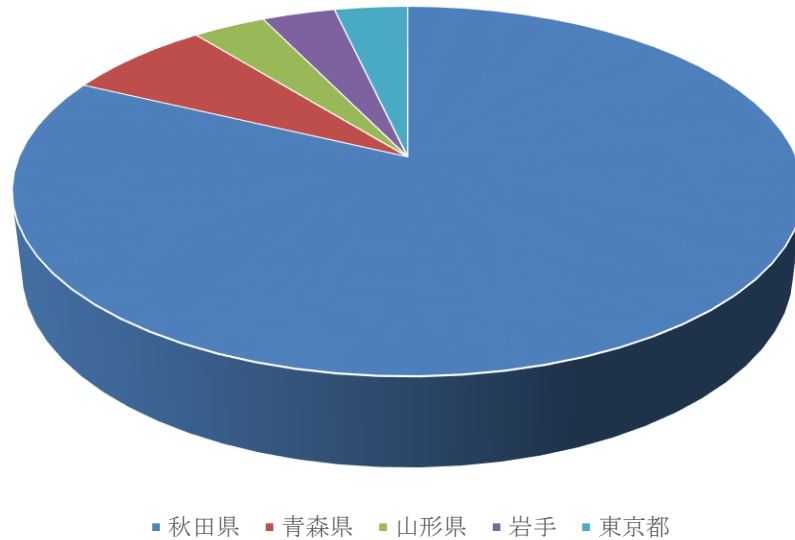
取材：ABS 秋田放送

アンケート集計結果（回答数：28名）

Q1.参加者の職種と勤務先の都道府県

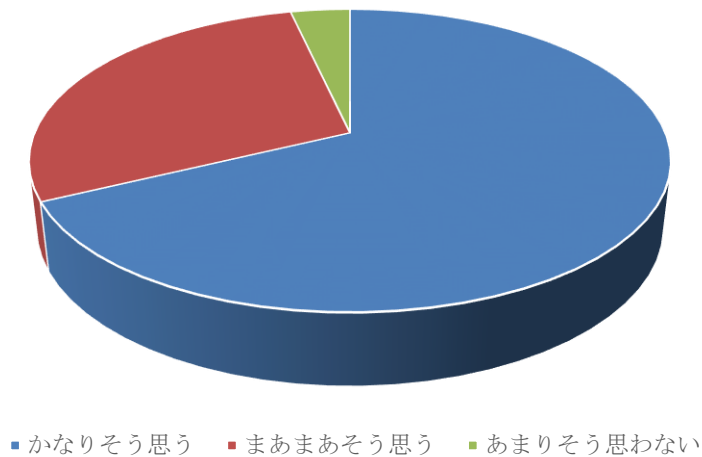


勤務先の都道府県



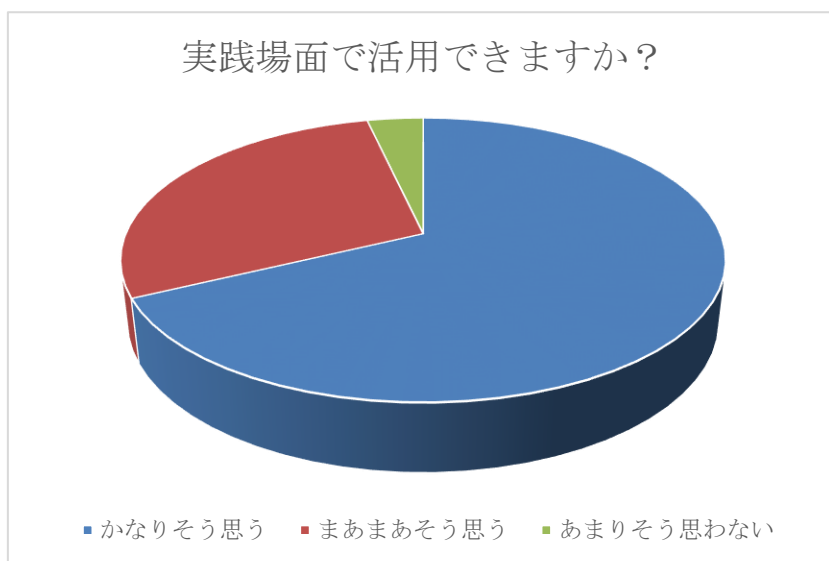
Q2.スキルアップにつながったと思いますか？その理由は？

スキルアップにつながったと思いますか？



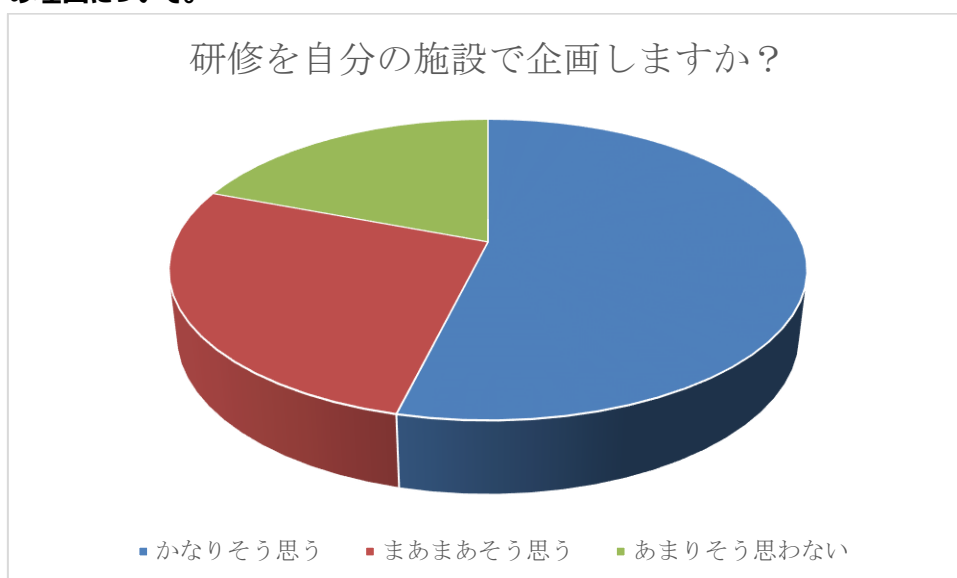
- ・咀嚼する物を舌の手前、ゼリー状を舌の奥へ。始めから入れ真っすぐ（口に入れるしゅうかん）、舌を押しななめぎみで上唇にあてながらひくという基本的なやり方を学ぶことが出来た。再認識できた。
- ・口から食べるためには全身状態、姿勢、環境が大きく関わることを再認識。悪い部分を指摘され、何が悪いのかすぐ判断出来ない。
- ・食事介助の実技に一回も当たらなかったのが残念に思います。
- ・介助される人の気持ちがわかったのがよかった。普段何気なく行っていることが介助される人にとって食べやすいか食べにくいかがわかった。
- ・今まで経験で感じたことを漠然と行ってしまう部分があったが、根拠を理解し、実戦でやってみて学べるが多かった。

Q3.今後の実践場面で活用できますか。どんな場面で活用出来ますか。または、活用できない理由について。



- ・明日から現場で支援していきたいと思います。（吸引での口腔ケア、食事動作の支援について）
- ・車いすのポジショニングのしかたが実践できると思った
- ・KT チャートの秋田での実例、とても参考になります。
- ・スタッフ全員ではとても難しいが個人では明日から行っていきたい。
- ・周囲のスタッフの意識を変えていきたい。正しい姿勢、ペースで食べられるよう、明日まずやってみたい。
- ・車いすのシーティング方法、含嗽のできない方の口腔ケア。

Q4.本日の実技セミナーのような研修を自分の病院・施設等で自ら企画して行おうと思いますか。その理由について。



- ・KTSM セミナーを自分自身もっと深く受けたいのと医院や地域で共通認識にしたい。
- ・看護補助者による食事介助場面が多いので、看護師だけでなく、対象者を広げ、かつ参加者のレベルに合わせながら行いたい。
- ・職場で実技セミナーを実施したいと思っていますが、今支援について多職種との温度差があり、ふみきる

ことができていません。

- ・誤嚥性肺炎神話がいまだに常識のようになっています…「口から食べる」ことに寄り添える様、特に「医師」、看護師の意識を変える必要が迫っています。
- ・介護職員への伝達講習を行いたい。

Q6.「口から食べる」ことに関する内容で、今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容はありますか？

- ・口腔ケアの必要性を深く学びたい
- ・実際の患者様がいる実技
- ・バランスチャートの評価点のつけ方。バランスチャートの読み取り？（バランスチャートの理解の仕方）
- ・フローチャートの作成。事例を出してもらい作成、添削してもらえような。
- ・KT バランスシートの評価の仕方、実際の評価方法
- ・当事者に合った食形態の選択ポイント
- ・調理実習、あれば楽しいかなと。（在宅、施設向きに）
- ・認知症状の強い方へのアプローチについて